

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

市町村（保険者）名	八街市
所属名	福祉部高齢者福祉課
担当者名	加藤 明子
連絡先（TEL）	043-443-1207

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

項目 番号	第9期介護保険事業計画に記載の内容				令和6年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価 結果	課題と対応策
1	①自立支援、介護予防、重度化防止	高齢者人口の増加、特に前期と後期を比較すると、後期高齢者数が伸びる状況が継続する。そのため、要介護認定者数も増加していく事が見込まれる。	介護予防の考え方や実践についての普及啓発	■介護予防教室 (R6) (R7) (R8) 参加者実人数 80人 100人 120人	■元氣ぶらす講座 参加実人数 Aコース 17人、Bコース 12人 合計29人 ■出前元氣ぶらす講座 参加団体 14団体 参加実人数 160人	◎	全体の参加実人数としては目標を達成しているが、広報等で募集をした「元氣ぶらす講座」は定員40人に対し29人の参加であったため、今後参加者の増加を図るため、教室の開催・周知方法を検討していく。
2			高齢者の通いの場にて介護予防リーダーを派遣し、活動の継続を支援	■出張介護予防教室 (R6) (R7) (R8) 開催数 350回 355回 360回 参加延べ人数 3,330人 3,360人 3,390人 派遣団体数 27団体 28団体 29団体	■出張介護予防教室 開催数 460回 参加延べ人数 4,736人 派遣団体 37団体	◎	高齢者の通いの場について、活動の継続を図るため、今後も介護予防リーダーを高齢者団体に派遣するとともに、出張介護予防教室に関する周知も引き続き行っていく。 また、介護予防リーダーの養成も実施し、安定してリーダーの派遣ができるようにしていく。
3			元の生活に戻す取組としての短期集中予防サービスの充実	■通所型サービスC事業 (R6) (R7) (R8) 参加延べ人数 40人 60人 60人 ■訪問型サービスC事業 (R6) (R7) (R8) 参加延べ人数 5人 5人 5人	■通所型サービスC事業 参加のべ人数 484人 ■訪問型サービスC事業 参加延べ人数 13人	◎	高齢者の生活を元に戻す取組として、令和6年度から通所型サービスC事業を本格実施したことで、参加延べ人数の増加につながったが、実施医療機関は1カ所であるため、今後も協力医療機関が増えるように働きかけていく。 訪問型サービスC事業は、通所型サービスC事業終了後支援が必要な方を対象としている全3回の事業であるため、延べ人数も13人にとどまった。
4	②介護給付等費用の適正化	令和7年3月末65歳以上の人口は、22,078人で、うち要支援・要介護認定者（65歳以上）は、3,118人（14.1%）が認定を受けており、令和8年度には3,300人を超えることが見込まれる。	①要介護認定の適正化	①認定調査の平準化を図る	①要介護認定の適正化 認定調査票の全件(2,146件)を確認し、認定調査の平準化を図った。	△	①認定調査の平準化を継続していく。
5			②ケアプランの点検 （住宅改修の点検、福祉用具購入・貸与調査等）	②必要なサービスの提供、事前審査、事後の現地調査確認	②集団指導：1回 運営指導4回 住宅改修・事前審査(187件) 実地検査(1件) 福祉用具貸与・軽度者に対する貸与について、事前に理由書から必要性を確認(16件)		②集団指導はインターネットを利用し実施。 住宅改修実地検査は写真が不明瞭な住宅改修の事例について実施しているが、最近増えている2階への手すり設置や、浴槽取替工事等も実施していきたい。
6			③縦覧点検・医療情報との突合	③医療と介護の重複請求等の確認	③定期的に点検を実施し、内容の誤りを早期に発見し、適切な処理を行った。		③サービス提供分の限られた件数しかできていないため、ケアプラン・縦覧点検（医療と介護の重複）について、職員の育成や委託等を検討していたが、体制の整備には至らなかった。
7							
8							
9							
10							

※行が足りない場合は追加してください。なお、主要な取組に絞って報告いただいても問題ありません。